

はじめに

本報告書は、平成12年度地震関係基礎調査交付金による岐阜県活断層調査をとりまとめたものです。

本年度は、平成10年度、平成11年度の調査結果に基づいて、高山・大原断層帯の中でも活動度が高いと指摘された、牧ヶ洞断層および江名子断層について調査を行いました。

調査は、高山・大原断層帯の活動性及び活動履歴を明らかにして、長期的な地震発生の可能性についての評価を行い、地震予知および防災上の基礎資料を作成し、地域防災体制の万全を計ることを目的としています。

調査の結果より、高山・大原断層帯の活動性及び活動履歴を明らかにして、長期的な地震発生の可能性についての評価を行い、地震予知および防災上の基礎資料を作成し、地域防災体制の万全を計ることを目的としています。

平成12年度の調査内容としては、牧ヶ洞断層については地形面区分、精密測量、地表踏査（精査）、トレンチ調査およびボーリング調査を実施することとし、断層の位置・性状、平均変位速度・最新活動時期・単位変位量および地震再来間隔などの活動性に関する新知見を得ることに努めました。

また、江名子断層については、地形面区分、地表踏査（精査）を実施することとし、断層の位置・性状、平均変位速度・最新活動時期・単位変位量および地震再来間隔などの活動性に関する新知見を得ることに努めました。

なお、調査に際しましては清見村および高山市より多大なご協力を頂きましたことを、ここに記して感謝の意を表します。

平成13年3月

岐阜県県民部消防防災課